

2018年度 東北福祉大学 解答速報(2月2日実施分)  
一般選抜・A日程(学部統一) 国語

解答

—		
問一	ア	3
	イ	5
	ウ	2
	エ	4
	オ	1
問二	a	3
	b	1
	c	2
	d	5
	e	4
問三	人生や社会における大事な問題ほど、すぐには答えが出ないものだから。 (三十三字)	
問四	耐えられないからだ。	
問五	あたりまえのことに疑いを向け、対立的な思考を通して問いを問いつづける プロセス。(三十九字)	
問六	①	懐疑
	②	回避
	③	ゆうよ
	④	あいまい
	⑤	殺到

二		
問一	ア	5
	イ	1
	ウ	2
	エ	4
	オ	3
問二	a	2
	b	5
	c	1
	d	3
	e	4
問三	4	
問四	デジタル技術が、多種多様な記憶媒体の情報形式を統合したという意味。 (三十三字)	
問五	印刷の普及による公開化により、正確な知識の流通と蓄積が可能になった。 (三十四字)	
問六	①	綿密
	②	損傷
	③	繁茂
	④	かきょう
	⑤	可塑性

<b>講 評</b>
------------

**【総評】**

現代文の評論問題二問。いずれも内容・設問ともに標準的。空欄部分の紛れが例年に比べ少ないが、記述の字数が全体に厳しめであり、要素をすべて盛り込むのは難しいか。

**【設問ごと】**

一 鷲田清一「哲学の使い方」よりの出題。哲学における思考の継続の現代的な意義について述べる。記述と空欄補充のみという形は例年通り。空欄はすべて前後の文脈。問三の記述は「なぜ」の問いに対して、次の段落の頭に「というのも～からである」という表現がある。問四も「なぜ」に対する「～からだ」で答えが出る。問五の記述は設問の「どのようなプロセスが」という指定に対し、空欄 b 直後に「問いを問いつづけるプロセス」とある。

二 長尾真他「書物と映像の未来-デジタル化する世界の知の課題とは」よりの出題。現代における情報のデジタル化の社会的意義について述べる。やはり問一、二の空欄を埋めていくと方向は出る。問四の記述は「今日」の転換の内容なので、直後の文脈ではなく、後半の「デジタル化」の内容をまとめる。問五は直前の「印刷の普及により」から、直後の文脈を見る。

**【対策】**

語彙力、文脈把握力、主題把握力、記述力がバランスよく問われており、総合的な国語力がしっかり求められる。とりわけ語彙的な分野のハードルは例年高め。空欄補充はほとんどが至近の文脈で出るのが、選択肢の語句を、意味も含めて知っておかないと正確に埋められない。しかも空欄が本文の論旨に関わる部分に集中していることが多いので、ここができないと主題も把握できず、記述も正答できない、ということになる。

したがって、まず対策としては早めに「言葉」の力をつける(辞書を活用する習慣を付ける)こと。また、記述量が多めであり、設問ごとの指定字数も厳しめなので、日頃から論旨説明の問題にチャレンジし、答案作成力をつけることが必要である。